

## 令和3年度第2回地域福祉計画推進協議会 議事録

日時：令和3年11月30日（月）18:30～19:45

場所：高知市役所本庁舎 611・612・613 会議室

（司会）

はい。それでは定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第2回高知市地域福祉計画推進協議会を始めさせていただきます。本日はお天気も悪くなり、お忙しい中、皆様ご出席いただきましてありがとうございます。

本日司会を務めさせていただきます、地域共生社会推進課課長の川田と申します。よろしく願いいたします。議事に入りますまで進行させていただきます。

ではまず本日使用する資料のご確認をさせていただきます。資料につきましては事前に説明動画と共にお送りさせていただいておりました。まず「会次第」、次に「令和3年度第2回高知市地域福祉計画推進協議会資料」、別紙資料として「地域福祉に関する調査及び意見交換会等の結果について」というホッチキス留めの資料、また別紙資料2ということで「高知市地域福祉活動推進計画中間見直し追加版（案）」というものをお送りしております。

また本日、配布資料としまして机の上に置いておきますのが「令和3年度第2回地域福祉計画推進協議会質問回答票」ということになっております。資料の方、手元のない方いらっしゃいましたら事務局の方にお知らせいただきたいと思います。皆さん手元にございますでしょうか。

はい、ここで本年度5月に委員の交代が1名ございましたのでご紹介させていただきます。お手元の「高知市地域福祉計画推進協議会資料」の1ページの委員名簿をご参照ください。名簿11番目の「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」から東森理事に代わりまして常務理事の田中佐和子様にご就任いただいております。ただちょっと田中様、本日遅れてるようですのでご紹介だけさせていただきます。また、本日は吉富委員の方がzoomでの参加ということになっております。

それでは開会にあたり事務局を代表として健康福祉部長大野よりご挨拶申し上げます。

（健康福祉部 大野部長）

はい、委員の皆様こんばんは。本日はお忙しいところ、また誠にお足元が悪い中ご出席賜りましてありがとうございます。またこの夏ですけれども高知県でも変異株によります新型コロナウイルス感染症が爆発的に急増しまして、感染された皆さんに一時期自宅療養をお願いせざるを得ないという状況になっておまして、新型コロナウイルス感染症対策また対応につきまして、地域の皆さま、また地域医療に携わる皆さまには大変お世話になりましたことをこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

さて、本市の第2期地域福祉活動推進計画でございますが、「だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち」を基本理念としまして、地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化、そして「おたがいさま」「ほおっちょけん」の住民意識づくり、つながりのある相談支援体制の構築といった、この3点を重点基本目標としまして、地域共生社会の実現に向けまして様々な取組を進めているところでございます。

その中でも重点的、特徴的な取組としまして地域の調剤薬局さんや社会福祉法人さんのご協力を賜りまして、ちょっとしたお困りごとなど地域の身近な相談窓口としての「ほおっちょけん相談窓口」を、令和元年の11月に5地区の28か所で開設した後、現在は市内の10地区、合計で59か所におきまして地域の皆さんのご協力のもと各地区の社会資源情報の収集、また地区ごとの課題解決に向けまして、わがまちならではの仕組みを市社協と共に構築しているところでございます。

本日ご審議いただきます、「中間見直し追加版」でございますが、これまでの取組の振り返りと共に令和4年度から実施をいたします、高齢や障害、子育てなどの各分野の属性を超えて支援する仕組みの、いわゆる重層的支援体制の構築に向けまして、庁内関係部署で協議検討を進めてきたものを実施計画として盛り込んでございます。

また、高知市の再犯防止推進計画につきましても保護司の皆さんや保護観察所など関係機関の皆さんとの意見交換を行いまして、この計画内に盛り込んで、さらに取組を推進をしていくということとしております。

本市が目指しております、高知市型共生社会の実現に向けましては、行政の様々な福祉施策を有機的に組み合わせながら、ここにお集まりの皆さまをはじめとしまして、地域の皆さんと一緒に共通認識を持って、地域づくりを進めていくことが欠かせませんので、委員の皆様には豊富な経験、またそれぞれのお立場から忌憚のなきご意見をいただけますようどうかよろしく願いいたします。

(司会)

はい、続きまして今回の推進協議会の開催の趣旨についてご説明をいたします。資料3ページの方をご覧ください。

今回は、高知市地域福祉活動推進計画の推進にあたり条例第2条の中でも、第1項第4号の地域福祉計画の見直しに関することを中心に協議をしていただくために開催するものとなっております。

なお、この会につきましては、情報公開の対象となりますので議事録を作成する関係上、ご発言の際にはマイクを通してお名前をおっしゃっていただき、その後にご発言の方をお願いいたします。

当初ですね、今年度は推進協議会を4回開催予定でしたが新型コロナウイルスの影響等もあり今回を含め3回の開催となっております。今回の協議会は新型コロナウイルス感染

拡大もあり委員の皆さまの協議時間確保のため、初めての試みとして資料の説明動画を作成し事前に送らせていただきました。

事前質問については、ヤングケアラーやごみ出し支援についてのご質問や、ほおっちょけんネットワーク会議についてのご質問などいただいております。また地区での活動について、「それぞれ状況が違っている所以他の地区と同様にできない」「自分の地区ではどうすればいいのか悩む」と言ったお声もいただいております。

回答につきましては本日お配りしておりますので、お目通しいただき中間見直し案に合わせてこちらについてもご意見などありましたらよろしく願いいたします。

それでは議事の方に入りたいと思いますので玉里会長よろしく願いいたします。

(玉里会長)

はい、それでは皆さんこんばんは。ここから進行を務めさせていただきます、高知大学の玉里でございます。どうぞよろしく願いいたします。リモートで参加の皆さま、吉富さんよろしく願いいたします。県社協の方も入っておられます、よろしいでしょうか。

それではですね、皆さん今回初めての試みとしまして、資料をDVDあるいはですね、動画で見ていただくという試みがありましたが、大変楽しい動画で「ほおっちょけん」とですね、コメディタッチな部分あり、飽きずに47分しっかりと見ることができましたけれど、皆さん視聴していただけたと思います。また、ご質問もですね、いただきましてありがとうございます。

それでは報告事項にあります「地域福祉に関する調査及び意見交換等の結果について」と「中間見直し素案について」につきましては事前に動画の説明の送付がございました。概要報告を先ほど司会の方からありましたので質疑応答の時間を含めて協議の時間を取っていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それではですね、早速ご質問を受けてよろしいという事ですよ、何だかちょっともぞもぞしますけれども何から始めていいのかというところはあるんですが、質問が出ておりましたので、これに対して簡単に事務局の方でお答えいただきながら、次の質問と言いましようか、委員さんのご質問この間にお考えいただき、またマイクもお返ししたいと思います。

それから毎回ですね、せっかく遠路、また、今日もお足元悪い中ですね、お集まりいただいておりますので、是非一人一回はご意見いただいてという風に議事をやっておりますけど、今日は一時間で終わらないといけないとですね、これまた新しい試みでございますので、もしかするとマイクがお返しできないかもしれませんが、その時はどうかご容赦ください。

それではあのご質問が出てたようですので、どの様な形でご回答いただいているのか含めてですね、ご説明事務局の方からよろしく願いいたします。

(地域共生社会推進課 山下係長)

はい、地域共生社会推進課の山下と申します。私の方から質問回答票について少しご説明したいと思います。表裏少しわからないと思いますけども、短い方と言いますか、左上に「(1) 地域福祉に関する調査及び意見交換会等の結果について(資料1)」と書かれているものをご覧ください。1番目三橋委員さんからご意見頂いております。ほおっちょけんネットワーク会議について、活動の創設、地域課題の解決とあるが、どのような活動になっているか知りたいというご質問を頂いております。回答としましては、ほおっちょけんネットワーク会議では、地域を構成する多様な主体が出会い学び合う、プラットフォームの形成を目指していますという様な事を書かせていただいております。具体例として江ノ口西地区の、活動の状況等を回答させていただいております。また②としまして、ほおっちょけん相談窓口について、まだまだ周知がされていないというようなご意見もいただいております。ほおっちょけん相談窓口についての周知方法としまして、あかるといまいちに今後特集を掲載する予定があることや、それぞれ地域の皆様のご協力を得ながら周知に努めております。今後もさらなる周知に取り組んでいきたいという回答とさせていただきます。

また2番目島元委員さんからのご質問としまして、高齢化を迎えごみ出し困難者がますます増えてくるため、援助が必要ではないかというご質問を頂いております。高知市でもこの様な方が、最近色々な相談があることは把握しております。今後しっかりと検討していくとともにですね、現在取り組んでいるふれあい収集の事も書かせていただいております。

3番目としまして細川委員さんから。ここ市社協から。

(高知市社会福祉協議会 竹島参事)

はい、高知市社協の竹島です。細川委員さんからは、江ノ口西地区と一宮地区、旭地区は住民の活動が比較的活発な地区ですが、各地区の特性や人との結びつきが異なるので、なかなか統一的にはできないということ、そして北街地区ではどうすればいいのかという質問をいただいております。各地区の地域性等もあって、それぞれ地域で活動されている皆様が日々悩みながら活動されていると思いますが、私たち高知市と高知市社協ともに地域福祉の推進に向けて、地域の皆さまのお力になって活動を一緒に検討させていただきたいという回答としております。

(玉里会長)

はい、ありがとうございます。と言いましてもちょっとあっさりしすぎていつものようにはいかないですけれども、私お三方の質問を読ませていただいております。またここからというの、部分もあるんですけれども、一旦お答えいただいたということにしまして、それではやっぱりそうは言っても、ちょっとどこからでもというわけにはいきません

ので、資料の1ですね。お手元に資料の1がありますけれども、市の方ですね。法人さんへのアンケート、それから民生委員さんへの聞き取り調査、市社協さんから意見交換会がされたという事で資料1が出てきております。既にご覧いただいているという事を前提にしながらでございますが、この資料について何かご意見とか、あるいはこのところをもう少し聞きたいといったようなところがありましたら、お願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。はいよろしく申し上げます。

(長尾委員)

島元委員の意見にも出ておりますけれども、高齢者によるごみ出しの困難者ですね。よく耳にするのは、認知症の方なんです。不燃物は日が決まっております。曜日も決まっておりますけれども、認知症の方間違っておりますね、全然日がわからないということで、例えば不燃物の日に生ごみを出す。生ごみの日の曜日を違えて、全く違う日に生ごみを出すというのを近頃よく耳にしている。どうしたらよいかということで、生ごみの問題が我々も議題上げております。どうしたらよいだろうかということです。

それからほおつちょけん相談窓口が出ていますけれど、これ福祉だけではなく町内会連合会としての話ですけど、町内会長が一番地域のこと分かっております。私にもよく相談があります。あそこの舗装が壊れてどうしたらよいだろうか。あそこの勾配がきついがために人が落ちて危険だ、なにか防護策ができないかという、ハードの話だと思っておりますけど、そういうのは町内会を通じて私なり地域の市議会議員さんなりに頼んでやっておる。町内会の会長はそういう地域のこと一番分かっていると思うんですよ。あるところには認知症の方がおる、障害者の方がおるといのはよくわかってる。私が非常に残念に思ったのは、ちゃんと連携のそういう仕組みというのが町内会持っております。ただ前の会の時にも私言いました、ほおつちょけん相談窓口、薬局、福祉関係だけです。そういうことで私のところも薬局はいっぱいあるんですよ。けど、手をあげてくれない。誰もおらん。どこもないんです。手をあげてくれておりません。そういうことで、なんで町内会に一言、相談窓口になってくれないかという相談がなかったかというのが、非常に疑問に思っています。その2点をお願いします。

(玉里会長)

お願いします。

(高齢者支援課 石塚課長)

高齢者支援課の石塚です。お世話になります。まず認知症の方についてですけど、ごみ出し等、曜日を間違えると、様々なことが認知症初期の段階で結構あると思います。そのような場合ですけれども、各地域包括支援センターの方に、初期集中支援チームといまして、なかなかまだ確定診断がされていない方とか様々な対応が必要な方について、相談

する窓口の方が各地域包括支援センター14か所ありますけれども、そちらの方で行ってまいりますので、まずそちらの方に相談していただいたりだとか、またそういう方たちを地域の中でサポートしていく形ですね、認知症のサポーター養成講座なども地域包括支援センター通じて、地域の中で見守りをしながら、色々と日々地域の中で生活をしていくような、そのような取組しておりますので、ぜひ地域包括支援センターの方に、そのようなちょっと疑わしい方がおりましたら、一旦相談していただいとしますので、まずは1点目は私の方から以上です。よろしく申し上げます。

(地域共生社会推進課 川田課長)

はい、それでは地域共生社会推進課の川田です。2点目のほおっちょけん相談窓口に関してです。町内会の方が地域の日常生活の中で、一番地域の事をご承知でご相談も受けてるところのところは私たちも認識しております。で、すごく重要な役割になっているなというところも思っております。ですが、町内会の方のなかなか存続が難しくなっているところもあったりとか、町内で住民さんの方も色々、地域の状態も色々あるというのもお聞きはしております。そんな中「ほおっちょけん相談窓口」っていうものをやろうという時にですね。まず、個人情報という観点もありましたし、調査していく中で病院に通われている高齢者の方も多いですし、介護認定を受けてない状態でも通われている方もいる。そこで色々相談をしているという方もおりましたので、福祉医療の関係の方であれば、個人情報の取扱いっていう部分も、まずは承知していただいておりますので、そういったところはすでに相談を受けて、自分たちで解決をするという活動もあるということをお聞きしましたので、薬局さんと社会福祉法人さんというところで始めたということになっております。

ただ最初に申し上げましたとおり、町内会というのは本当に身近な向こう三軒両隣、助け合いができる単位というのは承知しておりますので、ほおっちょけん相談窓口のモデル地区になった地区でも、町内会で担当を置いて地域の活動として相談を受けていただいて、そこを行政の然るべきところや社協さんなどへ繋げるという取り組みを始めた地域もございまして、そういった形で普段の繋がりの中で活動していただいて、困りごとがあったら行政の方に繋いでいただくという活動になっていければなというところを思っております。

(健康福祉部 大野部長)

ちょっと私のほうから補足ですけど、自分も町内会の副会長をしておりましたけれど、ちょっと会長が不在になりまして、今は会長をやらせていただいておりますけれども、確かに長尾委員さんの仰るように様々な苦情が私のところに来てですね、ごみ屋敷の課題とか、独居老人の課題など沢山ありますけど、私の方はたまたま知識があるので、地域包括支援センターとかに繋いで、事なきを得ていますけれども、そういった面では相談

する窓口を拡大していったって充実させるという意味では「ほおっちょけん相談窓口」もですね、かなりその一助になるんじゃないかという風には考えていますし、長尾委員さんの仰るように「ほおっちょけん相談窓口」自体がなかなかないところはですね、これから他の手も考えて開拓していきたいと考えています。

(長尾委員)

ありがとうございます、ただ一つ疑問に思いました。個人情報の関係です。個人情報は町内会加入団体 811 全部市役所に出しております、個人情報。電話番号も全部入れております。それは公開は我々認めての提出しておりますので、宅建協会なんかもよく連絡があります。「あそこの地域の会長は誰や」電話まで教えております。

そういうことで共生社会を常に我々もやっていこうということでやっておりますので、是非個人情報で問題があるというのは我々の組織なんだと思っております。行政にはそれが無いというのは我々の思いを持っておりますので、行政が仕事を一つする中で個人情報を盾にして、そのなかなか情報が受けられないというのはちょっと私たちの組織としては本末転倒な答弁ではないかと思っておりますのでよろしく願いいたします。行政のトップもおりますので見解もあると思えますけど、我々はそういう風に理解をして、できるだけ町を良くしていこうとしての行政にある場合は町内会は全部公表しておりますので、それは知っていただきたいと思えます。

(健康福祉部 大野部長)

1点だけですけれども、町内会の方で個人情報の漏洩をという風な話ではなくてですね、ほおっちょけん相談窓口に相談された時にほおっちょけん相談窓口側が個人情報の管理をしっかりしていただく必要があるということをお願いしたかったということです。

(玉里会長)

よろしいでしょうか、はいありがとうございます。そしたらですね、色々と多岐にわたっておりますけれども、資料1の1番の方ですね、法人さんの全数調査も高知市が初めてされたということで福田委員さんのところにもアンケート来たかもしれませんし、アンケートのことでいいですし、そうでなくても法人さんとしてですね、地域福祉との関連で推進されてることやあるいはお困りのこととか何か御座いましたら一言お願いできますか。

(福田委員)

ほおっちょけん相談窓口ですか、私たちの法人も参加させていただいて徐々に地域の方に分かってきていただいております、11月24日マルナカ高知インター店で開設したところ合計20件近い相談がありました。また、町内会の方々も直接あざみの里に来て、一緒にお話

しさせていただいたり、私たちが民生委員さんのところへ出かけさせていただき、その時に一緒に民生委員の方とお話しさせていただいたりとかでほおちよけん相談窓口のこともお話しもさせていただいて、そこでまた話が弾んだりとか、情報共有はいろんなどのでできることがあると思います。認知症サポーター養成講座の時にも「こういうところに相談したら良かったんだね」という言葉も聞かれており、いろいろなところに相談窓口があるということは、町内の皆様にもとてもありがたいことかなと思っております。以上です。

(玉里会長)

ありがとうございます。誰かあの法人さんの方で何かこう段々ですとね、理解が進んで来たとかですとね、地域の方に開かれてきたりとか、そういう動きとか感じられることはございますか。他の法人さんとか、全体で、福田さん。

(福田委員)

他の法人ですか？

(玉里会長)

はい。

(福田委員)

法人同士ですか？

(玉里会長)

はい。

(福田委員)

それは防災の観点とかでも一緒なんですけれども、他の法人の方にも、やっぱり広がっていると思います。でももっともっと知っていただきたいとあるというのがあると思うんですけど。

(玉里会長)

はい、ありがとうございます。割り込みで質問とかあったら是非、全然構いませんので。それで今も出てましたけど、2番目の聞き取り調査の方は民生委員さんということで、島元委員さん、民生委員さんの方でも何か新しい動きとかコロナ禍でもありますけれどもですね、何か進んで来られたとか、あるいはちょっと問題を抱えられていることとか、何かあればお話しいただきたいんですけども。



(島元委員)

ここの質問にも私出しておりますけど、今 2025 年団塊の世代が後期高齢になる問題、それから「8050」、80歳の親に年金貰っている上に何もしない子どもさん、それから親の介護ケアと子どもの忙しいダブルケアとかに続いてひきこもりも深刻ですけども。今注目されてる「ヤングケアラー」ということでこれは中学生で6%、高校生で5%ほど、中には小学生も親の介助していると。これはかなり深刻な問題で、これに対して新たな救いの手はないかということ質問したんですけど。これに対してなんか回答、書いてますけどお願いします。

(子ども家庭支援センター 坂田所長)

子ども家庭支援センターの坂田です。こちらに書いてあること以外でお話しさせていただくとすると、現在、中高生は勿論、小学生にもヤングケアラーと呼ばれる、疑われる方がいるということです。高校生、中学生、高知市立の学校だけではない子どもの問題ということで、高知県が来年の6月か7月頃を目途にインターネットを利用してヤングケアラーの実態調査を行う予定であるということ聞いています。ただ、匿名でやるということは決まっているようですけども、市町村名まで入力するかとか学年を入力するかとかいうところまで詳細は決まっていないということ聞いています。県内の中高生の実態を掴んだ上で、各市町村にデータをフィードバックしてくれるようです。

また県の取組としまして国庫補助率10/10を活用し、「ヤングケアラーコーディネーター」を1名構えることを予定していると聞いています。社会福祉士資格を持っている方を想定しているようですが、その1名を高知県の方に配置をした上で、各学校とか福祉専門職なんかに対してヤングケアラーというのはどういうものかとか、どういう対応が必要かというのをレクチャーしたりコーディネートしていくという話を聞いています。

またヤングケアラーとご自分が自覚している児童生徒の方からのインターネット上でのやり取り、オンライン型のサロンを開設するなど次年度は予定しているということ聞いています。念のため、いずれも予算編成の段階ですので、現段階では、来年度実施されることが確定しているものではないことを申し添えます。

高知市は我々児童福祉部門につきましては、こちらにも書いておりますけれども、ひとつは学校から「この子はヤングケアラーの疑いがあるのではないか」というご相談を受けることで早期発見することを期待しています。ヤングケアラーは不登校の子どもに限ったことではありません。宿題ができない、宿泊を伴う学校の行事には参加をしない、こういった現象を受け、その理由を学校の担任の先生が探ってくれる中で、お家の中でお手伝いの程度が非常に過ぎている、いわゆる「ヤングケアラー」と呼ばれる状態になっている子どもじゃないのかというご相談を受けましたら、要保護児童対策地域協議会のネットワークを使いながら、その子どもさんのお話を聞いたり、時にはご家庭の方に入らしていた

多く対応をさせていただいて、多くの場合は障害や介護のサービスを導入していくということで、そのお子さんの負担感や、介護される側の方の負担も取れていくという事例を今までも何件か対応させていただいているところです。繰り返しになりますがそこに書いてあるとおり「ヤングケアラー」ということ自体を自覚されていない子どもさんが多いことと、「ヤングケアラーではない、これは家の手伝いの一つである」と思われている保護者の方、ご家族の方が日本では多いというのが、この問題を潜在化させている一番の原因です。県の行うインターネット上での実態調査も踏まえて、子どもさん自身にも「私はヤングケアラーではないか？」と気づいていただきたい。それから学校現場や福祉の専門職にも、「この子はヤングケアラーではないか？」というアンテナを持っていただきたい、そういった取組を今後進めて救いの手を差し伸べていきたいと考えています。

(島元委員)

ありがとうございます。この問題は非常に深刻な問題で、一つの分野だけでなしにあらゆる角度から対応する必要があると思います。ただ民生委員としては高齢化による欠員、どこの地域にも欠員があり私のところにも欠員があります。常に年中欠員補充のために動き回っているという現状がございますので、今は江ノ口東でしたらこの中の人でしたらどこでも担当する事ができますけど、例えばそこに住所がなくても店舗があれば、そこで主たる仕事している所であれば、それも民生委員になってというのは可能かどうかお聞きしたい。

(地域共生社会推進課 川田課長)

地域共生社会推進課の川田です。申し訳ございません。私も元健康福祉総務課ですけれども、協議会の方にも出さしていただきましたけど、少しその辺確認の上またお返事させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(玉里会長)

ありがとうございました。それでは次行きたいと思うんですが、どこからでも良いんですが、次、資料の方を見ながらなんですけれども、意見交換会、社会福祉協議会さんが様々なボランティア、「ほおっちょけん学習」について、ヒアリングをされたということでボランティアの方から、さわやか高知三谷さん、何か日頃活動の中で感じられること、あるいは何か地域福祉に取り組まれていること、ここに書かれている課題とかありましたら。

(三谷委員)

特にございませぬ。とても良くできていて、高知型の共生社会をつていうことをおっしゃったんですけれども、それがまだ一つよく私も分かっておりませぬが、ただほんとに共生するんであれば素晴らしい計画なので、どうやってこれから実質動かしていくかってことが

非常に大事だと思います。

先ほどから例えばごみ出しの問題になってますけれども、これこそ町内会っていうか、私は南国市なんですけれども、町内会が連携とってて、あそこのおばあちゃんちょっとおかしくなったよっていうと、代わりに隣の私が動くという、そういうことは町内会にしかできないと思うのです。共生社会っていうからには町内会ももちろんなんですけれども、私共のようなNPOなどにいかに行政さんのほうが、信用してっていうか、連携をとっていただけるかが非常に大きな要素になると思うんですね。物すごく素晴らしい計画をほんとに実際動かすには、私共も頑張っていくつもりですので、NPOでも様々あって、ほんとにやってるかやってないかっていうのは高知市ぐらいのレベルであればすぐわかると思うんですが。そのあたりのさびわけを上手くして、NPOとか団体とか町内会も含めて、様々な団体を上手くコーディネートしていただきたい。コーディネーターのお仕事が大変なんだろうけれども、使っていただきたいというのが切なる願いです。みんな熱い思い持ってるので、それが一方的に上から目線じゃないんですけど、上から一方的に押し付けられるような感じっていうのは、とてもちよっと辛いものがありますから、そのあたりを理解していただけたら、上手く回っていくような気がします。実際ほんとに大変なんだろうと思うんですけれども。ごめんなさい、全体の感じですよ。

(玉里会長)

ありがとうございます。ということで全体の中で連携であるとかですね、ではいよいよ本題の方に。今回見直しというか、中間見直しということで出していただいています、この件についても皆さんからご意見頂きたいところであるんですけれども、その前に中間に来るにあたって今三谷委員からもご意見ございましたけど、連携の部分でありますとか、あるいはですね、この計画を立てることによって推進されてきていること、現状として地域福祉が向上している、この辺りができつつあるんじゃないかというところは行政の方どういう風に見られているのかですね。簡単にご説明いただけたら嬉しいです。

(地域共生社会推進課 川田課長)

はい、地域共生社会推進課の川田です。計画を立てて以降、主な取組として、三つ掲げて「庁内連携体制の強化」と「地域力の強化と包括的な支援体制の構築」ともう一つは「社会資源等の情報の収集と提供」という事で計画の本体の方に書いて取組を進めてきました。今回中間見直しの方にその総括的な現在の状況というものを記載させていただいております。その中でやはり一番核となるのは、先ほどから出てきております、「ほおつちよけん相談窓口」そういう相談窓口が地域にできたというところで、まずモデル地区で今10地区というところになってますが、来年度から全市展開をしていきたいなということで民生委員の皆さんとか地域の皆さんにも、ご協力いただきたいと考えております。モデル地区でやってきた中ですね、こちらにも事例で4ページ、5ページの方に書いておりますけども、「ほ

「おっちょけん相談窓口」は地域で相談窓口があるっていうことが、困った時にいつでも家族がいなくても相談できるということで安心をもって暮らしていただくということと、それだけではなく、それをきっかけに地域の色々な町内会、民生委員、地区社協さんとか、いろんな方に集まっていただいて話し合いをして、地域に活用できる社会資源が何があるかとか、相談が入った時にどうやって解決していこうかとかいうようなところ話し合っただけでネットワークというものを作っていきなというところ、モデル地区の方でしていただいております。そういうところで5ページの方にある成果ということで、出してありますが、地域の中でもそういう意識が上がったというところ聞いておりますので、そこは直接コーディネート、ぐっすり地域に入らせていただいております、社協さんの方から少しお話を頂ければと。

(高知市社会福祉協議会 竹島参事)

はい、高知市社会福祉協議会の竹島です。5ページは江ノ口西地区と一宮地区のほおっちょけんネットワーク会議の事例です。

江ノ口西地区について説明しますと、当初は民生委員、主任児童委員、町内会長、薬局等のメンバーで開催していましたが、相談窓口に寄せられた内容や日頃から感じている地域の課題を共有するにつれて、それらの課題を解決するためには、多くの協力者が必要であるとの意見があり、資料にありますような様々な団体に参加いただいております。また、最近では会議の中で、地域課題の一つとして認知症高齢者の徘徊について話題が上がり、メンバーからの呼びかけで交番の警察署員に参加いただいております。高知市社協としては、相談窓口という入口を広げるということは、課題を解決する仕組みという出口を同時進行で進めていかなければいけないと考えておりますので、他地区でも開催できるよう順次進めております。

(玉里会長)

はい、ありがとうございます。このような江ノ口西地区のような事例がですね。高知県下何ヶ所ぐらい最終的には目標として作られるんですか、ネットワーク。

(高知市社会福祉協議会 竹島参事)

ほおっちょけんネットワーク会議につきましては、全地区開催を目標に進めますが、決して行政や市社協、関係機関が主体ではなく、住民の皆さんが地域の課題に対して主体的に考えて解決する仕組みを目指しています。もちろん住民の皆さんだけに任せるということではなく、住民の皆さんとパートナーシップの関係でネットワークを構築していきたいと考えております。令和4年度からほおっちょけん相談窓口が全市展開となります。将来的には全地区でこのような場が求められますが、その地域に合った方法で、そして住民の皆さんの主体性を大事にしながら進めてまいります。

(玉里会長)

はい、ありがとうございます。ちょっと吉富さん画面が落ちてしまったんですけども、もしいらっしゃいましたら。ちょっと土佐山の方ですね、どうですかこういったほおっちょけん相談窓口のそういったですね、土佐山にはまだほおっちょけん相談窓口は行ってないんですけどもニーズとか、あるいはこういった地域の力を強めていく拠点づくりとかあるいは様々な団体のネットワーク化とか何かそういうものの必要性みたいなところで感じられることがあれば是非ご意見頂戴したいと思います。多分ここ響き渡ると思います。

(吉富委員)

ありがとうございます。聞こえますか。

(玉里会長)

聞こえてます。お願いします。

(吉富委員)

はい、ありがとうございます、まずあの今回のビデオ画期的だったなと。ありがとうございます。資料の方も分かりやすく作ってもらってありがとうございました。

土佐山に関して言いますとほんとにどこもそうでしょうけど、一人のキーマンが10個も20個も肩書きを持っているような状態です。そう意味では一人でやってる分、連携してるという考え方もできますし、逆に1人でやっているからこそ細かいところまでできないということもあると思います。

土佐山において今回のすべての言葉は分からないですけども、重層的にとか、色んな取組が行われることがほんとに望ましいと思ってまして、すごい仕組みが動いてるなと思いつつそれが多分、土佐山では今完全に理解できていないんじゃないかなと同時に思います。

ですので、例えば今回の資料をより理解しやすくするために少しでも地域の方に分かってもらう為に例えば思いつきですけど、今の仕組みを利用した場合のケーススタディ、こういう事が起きた時にこういう制度が使われる、こういう時にこのコーディネーターがこういうふうに動くみたいなことが、もし僕が完全に理解していれば伝えられるんですけど、まだ理解ができていないところがありまして、そういう視点で考えると地域に伝える時にそういうケーススタディがあると嬉しいなと考えながら聞いていました。以上です。

(玉里会長)

はい、ありがとうございます。今回のほおっちょけんのビデオも含めてなんですけれども、そういったことも検討していただいたらという風に思いますので。貴重なご意見ありがとうございます。

まったくその通りですね、やっぱり住民の皆さん集まってどうしようという時に、ほんとに視覚で見る資料が今回その第一歩ができてですね、非常に面白かったし、そういうケーススタディ、こうした場合どうするというのがですね、誰が演技するかなというのがありますけれども、そういったビデオ作りとか、そういうことで学習を広げていくとか、住民の意識を向上させていく、そんなんに繋がっていくといいなと思いました。

どうもありがとうございます。そしたら、この辺りからどんどん何かご質問、何かあるんじゃない三橋さん。もう質問したからいい。そしたら先にすみません。田中委員さん。

(田中委員)

今日から参加させていただきました、NPO 高知市民会議の田中と申します。よろしくお願いいいたします。

ほおっちょけん相談窓口は素晴らしいと思います。こういう話し合いの場だったり、色んなところが地域地域に広がっていくというのはほんとに素晴らしいことだと思います。ただ、これ課題解決に向けた地域づくりと書いています。今立ち上がっているモデル地区でもよろしいです、具体的にはどういう課題を解決しようと今してるのかとお聞きしたいのですが。

(高知市社会福祉協議会 竹島参事)

はい、高知市社会福祉協議会の竹島です。ほおっちょけんネットワーク会議では、相談窓口を通して生活のちょっとした困りごとの解決に向けた話し合いを行っています。具体的には、電球が変えられないとか、リモコンの電池が交換できないというような些細な困りごとに対して、高知市社協の地域福祉コーディネーターが調整してモデル地区で登録している生活支援ボランティア等に活動していただいております。

(田中委員)

こういう会というのは結局大きなこと話し合いはできるんですけど、そういった細かい、小さいところまで、痒い所に手が届くいうんですかね、そういうところが一番重要だと思っていて、またそういう会に若い人たちが参加する。子育て中の方だとか、そういうところもやっぱり考えていかなければいけないんじゃないかなという風に思います。

すごくこういう取組が地域に広がっていくというのは素敵なことだと思いますし、どんどんこれから頑張っていただきたいなと思いました。ただ、さっきも言ったように個別の

そういう相談に対してきちんと対応できるような会であって欲しいなと思います。以上です。

(玉里会長)

はい、ありがとうございました。はい、どうぞ。

(高橋委員)

公募委員の高橋です。今回の事前説明の動画とか色々な工夫をしていただいております。感じたことを2点お話しさせて頂きたいと思います。

一つはですね「情報発信について」です。資料と動画説明を拝見してですね、いろんな取組や、こうして行きますなどを知ることができましたが、これをいかに広く市民に伝えるかも課題ではないかと思いました。資料2の7ページにLicoネットの記載や24ページの地域づくりに向けた支援の中に、市民誰もが地域福祉に関する情報を知ることができるよう情報の受け手の視点に立つとありますけれども、高齢化が進む高知市でですね、コロナワクチンの接種の申し込みの時に露わになったように、今のIT社会の中でそうでない年齢層や、また一定の知識や使いこなしのできる人にとっては何でもないことですが、不慣れな高齢者、私もその一人なんですけども、一定の知識のない、一定の知識を使いこなしができない人にとっては置いてきぼりになりかねないと思います。

個別の相談に繋がる前にも些細なことでもどうしたらいいだろうとか、どこで教えてくれる所はどこか無いかとかそういう時ですね、紙媒体等で情報を知ることができたらと思います。具体的にはさっき質問の回答でもありましたが、あかるいまちの活用であるとかですね、それから防災なんかでよく保存版の情報パンフみたいなのがありますよね。ああいう形で事例も載せてですね、こういうところで電話掛けてみたらみたいなそういう情報パンフなどを作るという風なことも考えられるのではないのでしょうか。

次に地域の中にですね、自分の居場所や存在、それから人との繋がりを感じられる所があるということ。この二年間のコロナ禍の中で私が活動の拠点としているサードプレイスの場で強く感じたのは、「もうたまらん」気持ちや、「愚痴を喋りたい」という人に多々出会ったことです。相談まではいかなくても人と話したい、軽く繋がりたい。資料2の16ページに図の中にありますがそんな居場所、集いの場です。〇〇会議参加では敷居が高くて参加なかなかできなくてもですね、気楽にふらっと行ける場所があること、軽い繋がりの中で自分がいることの大切さを感じる、そんなことを感じました。ちょっと言葉も不適切かもしれませんが、そういうガス抜きのできる場があることは、状況を深刻化したり、相談ごとまではいかない作用があるし、福祉のまちづくりにつながるのではないのでしょうか。具体的にどのように地域のニーズに沿った場を創出していくかが共に考えていかなければと思ったことでした。

(玉里会長)

せっかくですので、高橋さんはなんか具体的に活動とかされていますか？

ご意見だけ、はい、ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。

後ろが見えてきてみんなちょっと焦って。お聞きしたい、私何をしようかなと思ったかという先程のですね、ちょっとでもこの話を進ませる為に、江ノ口西地区のこういったネットワークの在り方みたいなものに参加されましたかとか、あるいはそういう参加の情報が来ましたかということをお聞きしたかったの。中々そういうのって来てなくて、でこういう資料見ると、どうもどこかでやっているらしいんだけど私のところには来てないんだけど、という方の方が勿論多いわけですね。その部分をもっともっとうり込んで来てくれる、いろんな多くの市民の人が入り込んで来てくれるといいなって細川さんも、そういうご意見でしたよね。なかなか、やってはいるんだけど、ほんとに多くの人が関わって、今まで民生委員されたりとかいろんな役割してる人が更に固まって、更にいい活動していくんだけど、ほんとにそこにアクセスできていない一般の市民の方々にはまだ通じていないところが残念だということをお聞きしているんじゃないかなと。そこをもっともっとうり込んで巻き込めるようになったら、もちろんこちらも入っていきこうって気持ちがないといけないんですけども、そこが「ほおっちょけん学習」になってくるんだと思うんですけども、そういうのが上手く繋がっていかないとなかなか向上していかないなっていうことで、共通点かなって思いました。ありがとうございます。

まずは中村さん、保育士会。子どもさんのこととかで何か。

(中村委員)

高知県保育士会の監事をしています中村です。お世話になります。実際今は保育園の方は色々情報出せないことがあって、保護者の状態を言うことがちょっと難しいですけど、各園やっぱり保護者対応に苦慮しているところがあります。ほおっちょけん相談窓口の方は保護者の方からも高齢者の窓口でしよって感じの意見もちらっと聞かれたり、若い人はネットとか使えて SNS で繋がることはできても、高齢者と反対で、人と面と向かってっていうのが苦手だっていうところがあるので両方のコミュニティがあればいいのかなと思って聞いていました。

(玉里会長)

ありがとうございます。ほんと皆さん一言ずつになってしまって申し訳ない。小笠原委員さん何かございますか？

(小笠原委員)

この場に来るのは初めましてになります小笠原と申します。よろしくお願ひいたします。



障害者の方を20年位やってまして、障害者の相談事業が始まった頃はですね、先ほど聞いてた電球を変えるのも相談支援専門員がやっていたというような状況があります。そこから徐々に相談員の方をコーディネーターとして、サービスに繋げていくとか色々な困りごとを拾い出してくるとかに20年位かかったという風に思っております。ですのでこちらの部分につきましても今始まったばかりのような状態ですので、これからどんどん広がっていくことを期待してますし、また地道な横の繋がり、「この人こういう形で助けてくれたんよ」というようなお話の場っていうのが徐々に広がっていくとこういうのも最後まで行くんじゃないかなと思っております。

ただこのコロナ禍で色々な人と話をする機会というのがどんどん減っちゃってる状態なので、これからコロナの状態が落ち着いてきて、サロンだとか、話す場だとか、その辺のスーパーの井戸端会議だとかいう所でこういうことが、こういう場所があるんだよというようなことが広まっていくっていうことをどのようにしていけばいいのかなという風に思っていて聞かせていただいております。よろしく願いいたします。

(玉里会長)

ありがとうございます。葛目さん何か一言お願いします。

(葛目委員)

秦地区社会福祉協議会の葛目です。コロナの状況にも関わらず、おかげさまで秦地区も第2次のモデル地区として地区内に「ほおっちょけん相談窓口」を開設することができました。また一方では地域の見守り体制を進める「つながり会議」の整備も市社協さん、包括支援センターさんのバックアップをいただき前進させることができていまして、これも大変ありがたく思っています。

ただ、こうしたネットワークづくりも大事ですが、正直なところ「電球ぐらい隣の人が替えちゃれんろうか」という気持ちがあります。一番大事な隣近所のつながりが希薄になっていることが問題だと思います。弱体化している町内会に焦点を当てて「隣近所お互い様」の関係を作り出すための何かができないだろうかと感じています。

(玉里会長)

ありがとうございます。三橋さんも一言。やっぱりですね、なんか一言全員言わないと申し訳ないのでちょっと一言。

(三橋委員)

社会福祉士の三橋です。すいません、いつも沢山質問を文面ですべて出してしまっていて事務局の方にはご迷惑おかけしてはいますが、今のお話を聞いていて思ったことですが、地域包括支援センターにも、それこそ電球を変えてほしいとか換気扇の掃除をしてほしいと

か、そういう話が相談として入ってくる中で、つい関係性ができてないと人に頼みにくいとか思っていますね、こっちで解決しようとしてしまったこともあったんですけども、やっぱり旭地区でも第2層協議体をやっている、シルバー人材センターとかと連携できるようになってすごく柔軟に対応してくれるようになってきたので、今すぐ来てとかいうんでもシルバー人材センターの方来てくれたりするので、そういうふうには有償ボランティアさんも柔軟になっていただくことも重要であるし、私たち包括支援センターも自分らで抱え込んでしまわずに、そうやっている方と連携していくことが大事だなと思ったことで、先ほど言われたように、町内の中でお互いさまで解決していけることもいいなと思ってまた今後のすごく参考になりました。ありがとうございます。

(玉里会長)

ありがとうございます。仲田公募委員さん。

(仲田委員)

皆さんこんばんは、高知大学より参りました公募委員の仲田和生でございます。よろしくお願ひいたします。今日会聞かしていただいてですね、ほおつちょけん相談窓口等非常に素晴らしい取組をされていらっしゃるというふうに思いながら聞かせていただきました。

私の方ですとね一点感じたことを最後にお話をさせていただきます。非常に社会の中でサポートが必要な方にですね、どのようにサービスを届けていくかと、支援をしていくかという発想でこの計画がすごい考えられているんだなということを感じました。その中で私が感じたのが、もちろん社会の中で支援が必要な人に目を向けていくということも非常に大切なんですけれども、ちょっと発想を変えてですね、地域の中で「誰が動けるのか」と「誰が支援が必要な人を助けられるのか」というところにも目を向けて、そういった政策を立てていただけると嬉しいなと思います。

というのもですね、先ほど吉富委員さんの方からお話もありましたが地域の中で動ける方に役職が集中してしまうという現状があるのを私も非常によく知っているところです。

そうした中でですね、実は地域の中で動ける人達というのはそういう方だけではなくて、大学生含め若者がおります。そういう我々は若者にですね、もう少し「どんなサポートができるのか」だとか「自治会でのアプローチどうしたらいいのか」だとか、若者に何かこう少しでも地域に入って行けるようなチャンスが生まれるような政策なんかを打ち出していただけると非常に若者としても地域に関わりやすく、社会に貢献していると思いがら地域に暮らせるなという風を感じながら今日のお話を聞かせていただきました。どうもありがとうございます。

(玉里会長)

ありがとうございました。喋りたいけどグッと抑えて。次に松下委員，何かございますか？防災について。

(松下委員)

初月地区防災連合会の松下と申します。今日はまず，ほおっちょけん相談窓口の件につきまして，私共の地域でもですね，モデル地区に今年度指定をしていただきまして，市社協の皆さん方のほんともう熱意こもったご指導によりましてですね，やっと準備会からネットワーク会議発足を確保するに至ったところでございます。

地域の主要な団体ほとんどがこれに参加をするということで，この間の準備会の議論を通じましても，やっぱりそれぞれの色んな目的別の地域団体が沢山ありますけれども，その中で一つ福祉というキーワードが皆さんに繋がりはじめたという感じがしております。

それで具体的には相談窓口も我が地区は社会福祉法人も少ないですし，さっきの薬局も少ないということで，じゃあこれをカバーするにはどうするのかということで散々議論して参りました。そこで色々皆さんからのご意見もございましたが，やっぱりこれは地域住民の声っていうのは一番その現場で汲み取れるのは町内会か自治会だよということですね。やっぱり本来地域の住民の自治の組織である町内会，自治会がそんなことを日頃からやっぱりよく把握してその活動に反映すべきではないかというふうなことなどもですね，ずいぶん議論となりまして，そこで私たち防災の立場ではですね，私たちの地区は今 850 名程の要支援者がいらっしゃいますけれども，この間 2018 年，19 年，2 年間で全ての皆さん方の個別避難計画を策定して参りました。このプロセスではですね，まず町単位に支え合いマップ作りを行ってきたわけですね。どこにどういう困りごとを抱えている人がいるか，どこに高齢者がいるか，どこに障害者がいるか，そんなことなどを自分たちの身近なことを知ろうよねというのが支え合いマップ作りの取組でございまして，その中で要支援者名簿に載っている方，あるいは載っていない方でも配るべき方々，そんな人などをリストアップしてですね，災害時にどう支援していくかというふうな入口の作業をしてきた訳ですね。それから町内会の役員さんやら，各種団体の皆さん方で，あるいは町内会の班長さんなんかもその中のメンバーに加わって一軒一軒ご家庭を訪問する訳ですね。そうしないと個別計画ができませんので。そういう活動していきますとまさにこの町内の課題っていうのが沢山皆さん抱えていらっしゃるという風なことがほんとに現実のものとして突きつけられた訳ですね。ですから私たち「ほおっちょけん相談窓口」は非常に良い取組なんだけれども，そこは限定的だよというふうに見とかなきゃいけないと思っているんですね。もちろんその窓口そのものもまだまだ少ないですし，そこにどれだけ困りごとをもった方が相談にいけるのかというとなかなかそれも難しいだろうと。だからそれはこっちが待ってるんじゃないかとこっちから行くべきじゃないかと，これをやるなら町内会じゃないかということですね，一部ですけども，それぞれ町内でそういった，要支援者対策で出てきた色んな要望をですね，あるいは悩みごと，そんなことを取り入れて町内会の活動

のベースにしていこうではないかと。これがほんとの福祉のまちづくりであるし、ほんとの意味でのまちづくりになるんじゃないですかという風な議論なんかもさしていただいております。

まだこれからどうなるか分かりませんが、やっぱり物事の本質としては、やっぱり地域の福祉っていうのは一人一人のそういう困りごとを持っている人に向かい合う、そういう地道な活動がそのベースにないと成功しないだろうという風に思っております。以上です。

(玉里会長)

ありがとうございます。時間になってきましたけど、細川さんもせっかくね。

(細川委員)

私事なんですけど、こういう会に出させていただいたり民生委員しておりますとこういうことを知る機会が多いんですね。だけど一般の方はなかなかそれを知る機会がないということで、いきいき百歳体操に初めて関わったのが16年程前ですが、その頃の保健師さんたち、堀川先生なんか「この体操は住民からやりたいという声を待つ。そこまで待たないと継続できないよ。」ということであの夜な夜なという失礼になりますけども、いろいろな会する時に保健師さんが来てくれているんなお話をなさる、実際に体操されてみて自分たちも体験してみる、効果を感じるということの中から360か所の中にお世話役さんが生まれていったということがありました。

やっぱり住民たちは気持ち、私たちみんながそういうことが必要だねっていうところがないとなかなか進んでいかないと思うんで、あの一般の方にどういう形でこういうことを知らしていくか。Lico ネットとか色んなことをやっておられるんですけども、もう一つはあのもうちょっと下に立ってというか、住民側の目線に立って理解しやすい、例えばさっきやられた江ノ口西の成功例というか、こういう住民がこういうことをやってるんだよっていうことを具体的に知らせていただく方法があれば嬉しいなと思いました。

(玉里会長)

はい、ありがとうございます。

(武樋委員)

はい、こんばんは、みその児童福祉会の武樋といいます、いつもお世話になってます。あのお話をずっと伺わせていただいて、ほんとに感想みたいなことになってくるんですけど、少しお伝えさせていただけたらと思います。

今回DVDを作ってくださいとすごく分かりやすく、私とかあまり実はそんなに福祉をずっとやらせていただいていますけど、違う分野の事とか市全体が取り組んでいるこ

ととかっていうのをこの場で聞いてもなかなか全部理解しがたかったですけど、DVDを見せていただいてほんとに分かりやすかったと思います。

こういうのが一般の市民の方にたくさん周知していくってことが大事かなという風に思いました。と同時に自分自身のことを考えてみると、こうやって会に参加させていただいているのに私自身は、広報活動というか、委員の一人として市民の方に、まずは自分のところに職員に「高知市こんなことをしてるんだよ」とか、「ほおちょけん相談窓口あるよ」いうことを伝えてたのかなっていうので、今お聞きしながらすごく反省してました。自分も委員の一人として多くの市民の方にお伝える義務があるんだなということ、今更ながらに感じましたのでやっていきたいなと思います。

先日ちょっと私個人的にオーテピアに行った時に「ほおちょけん相談窓口」のパンフレットを見つけて、自分も参加させていただいているので、なんか嬉しい気持ちになって、こうやってちょっとずつだけ広げていって下さっているんだなということを感じました。いつも大変な中、色々なことをやってく下さっている市の方、社協の方ほんとに感謝申し上げます。自分自身も委員としてできることをさせていただきたいなと思いました。ありがとうございます。

(玉里会長)

ありがとうございました。時間が気になるところなんですけど、最後にですね、ちょっと今日の皆さんの話とお聞きして、あとちょっと打ち合わせの方もありまして、そこから考えたことを最後にお話をさせていただきます。

ほんとにあの高知市の色々な団体さんで頑張っておられる方がお集まりいただいて、この推進協議会ですね。やはり皆さんご意見あるわけで。個別のご意見をいただいていると、あっという間に1時間が経ちます。もしですね、皆さんお忙しいと思うので強制できないんです。例えば分科会のような形でですね、いくつかの検討というかですね、行政さんと一緒にこう、それぞれの立場からもっと言いたいこともあると思いますので検討会のようなものをして、またその結果をですね、またこの場に持って来て一緒に共有させていただくとか、それは一歩も二歩も地域福祉が文字通り推進するのかなと思ってですね、8つぐらい今日テーマが出てたと思うんですけど。

1番は「ほおちょけん相談窓口」の在り方ですね。これも行政さんがされている、モデル地区などでされてるということですが、まだモデルにないところ、あるいはどんな形でそのほおちょけん相談窓口で市民が関わっていけるのか、ということを検討する相談窓口の在り方の分科会。

それから2つ目はですね、高橋さんも言われていましたけれども、そういった市民を繋いでいくというか住民の、まだ色々な情報を知ってない人、あるいは色々な団体、そういった方を繋いでいくような住民の繋ぎ方を検討するような、そういった在り方を検討する会。

それから3つ目は、「ほおっちょけん学習の在り方」というかですね、今回ご質問もあるいは追加の説明もいただきましたんですけど、企業さんなんかにも、「ほおっちょけん学習」を進めていかれているようですけど、この学習、学びの場というものをどういう風に広げていけばみんながこの地域福祉に関われるのかということで、ほおっちょけん学習の在り方というものをもう少し検討してみてもどうか。

4番目は、この町内会ですね。長尾さんもそれから松下さんも言われていましたけれども、他の方もなんですけど、やっぱり高知市のその町内会、もっとこう頑張っていくためにはどうしたらいいのか、いつもご意見をいただいているんですけどももっともってですね、色んな方に入っていただきながら町内会の在り方を一回見てみよう。地域福祉とつないだ町内会という形での在り方を考えるような会。

あるいは、ちょっと話があちらこちらに行きますけれども、ネットワークの事例が出ていましたけれども、どういうふうなグループワークをしていけば意見が出るのかとか、あるいは進む方向を見つけることができるのかという、手法的な、グループワークの。もちろん社会福祉協議会の皆さんそのプロなんですけれども、そういった技術的なところですね、グループワークのやり方を、高知流というか、そういうのを検討してみてもどうか。

その上で6番目で、いわゆる市民意識、ソーシャルキャピタルの醸成とか言われますけれども、高知市民として学んでいく、百歳体操を通じながら健康を考えるとあるいは福祉のことを考える、みんなが福祉のことに地域福祉についてよく知っている、そんな市民を育てていくような、そんな市民意識を育成するような会。

それから7番目としてはですね、今回ほんとに新しい試みで、DVDとても楽しかったです。それから吉富さんからも色んな映像の、資料の提供の在り方とか、ご意見ございましたけど、広報や情報提供の在り方ですね。こういったものの新しい方法、そういうものを検討する会。

そして最後にですね、個々の計画の中身を評価していくというかですね。本来はこの会是一个一つですね、今日もあのすごく資料を、行政それから社協の皆さんお作りいただいたんですけど、なかなかそれぞれの立場からの意見を言うていただくに終わってしまいました、それぞれの取組の評価と言いましょか、検討というのはなかなかできないで大変申し訳ないという風に私思っております。

そういった辺りも必要であれば少し、委員の皆さんもご多忙と思いますし、どういうことができるか分かりませんが、また委員の皆様にもご協力いただいて個別に少し検討する会みたいなものがあったらいいんじゃないかなという風に。きつとご協力いただけるメンバーの皆さんではないかなというふうに思いながら聞いておりました。

それではですね、ちょっと締めになるかどうか分からないんですけども7時44分あの私時間びつりに終わるんですけども、今日は超過してしましまして大変申し訳ございませんが、これで終わらせていただきまして事務局の方にお返しいたします。ありがとうございました。

すいません、大事なことがありました。今日は中間見直しの追加版ということでございましたが、ほとんどDVDの方でご覧いただいたということになりますけど、これでよろしいでしょうかというご承認をいただきたいということでございますので、よろしゅうございますでしょうか。

(委員一同)

拍手。

(玉里会長)

ありがとうございます。拍手がきておりましたので、それでは中間見直しにつきましてはこちらでということで、ありがとうございました。

(司会)

委員の皆様、本日は活発なご協議ありがとうございました。最後に事務局よりお知らせをさせていただきます。本日皆様のご了承を得られました「中間見直し追加版」につきましては、年明け令和4年の1月4日から2月1日にパブリック・コメントを実施させていただきます。その後パブリック・コメントの結果をもちまして、第3回目今年度最後の協議会を2月に開催をしたいと考えております。委員の皆様には開催日程が決まり次第ご案内させていただきますので是非ご出席の方をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和3年度第2回高知市地域福祉計画推進協議会を閉会いたします。委員の皆様ありがとうございました。気を付けてお帰り下さい。